都内主要繁華街における滞留人口モニタリング

東京都医学総合研究所
社会健康医学研究センター
西田 淳志

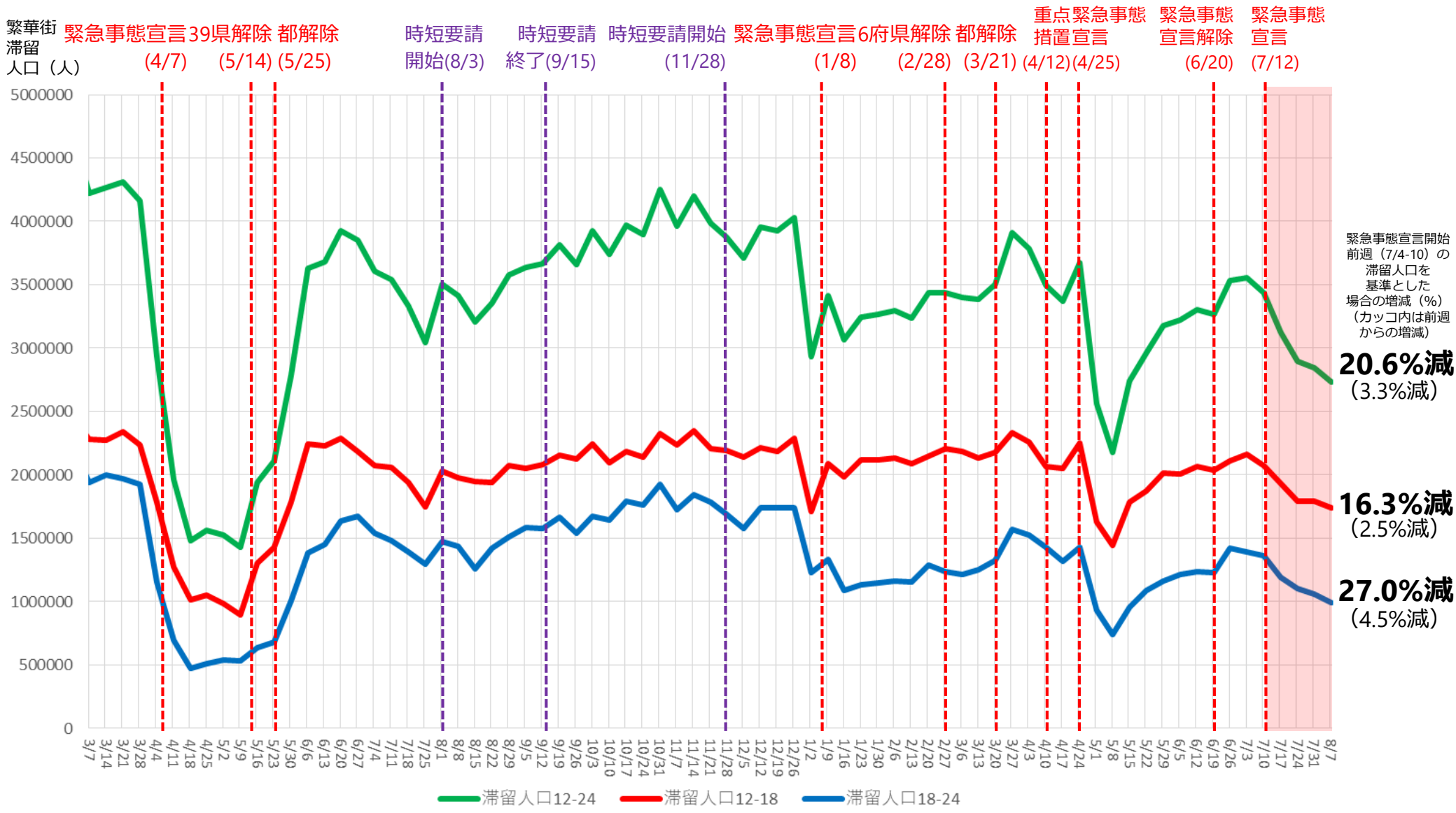
都内主要繁華街 滞留人口モニタリング
＜要点＞

- 夜間滞留人口は前週より 4.5 % 減少し、緊急事態宣言前に比べると 27.0 % 低い水準となる。しかし、前回（3回目）の緊急事態宣言時の最低水準（5/2-8）までには届いておらず、今後、新規感染者数が減少に転じるか不透明な状況。

- 新規感染者数のこれ以上の増加をくい止めるためには、**お盆期間中にステイホームを徹底し、もう一段、人流を下げきる**ことが重要である。

- 夜間滞留人口を年齢階層別に分析すると**中高年層（40～64歳）の割合が最も高い**。医療がひっ迫する中で、重症化リスクの高い中高年層の感染リスクを極力減らすことが重要な局面である。自分や周囲の命を守るために、若年層のみならず、**中高年層の一層の協力**が必要である。

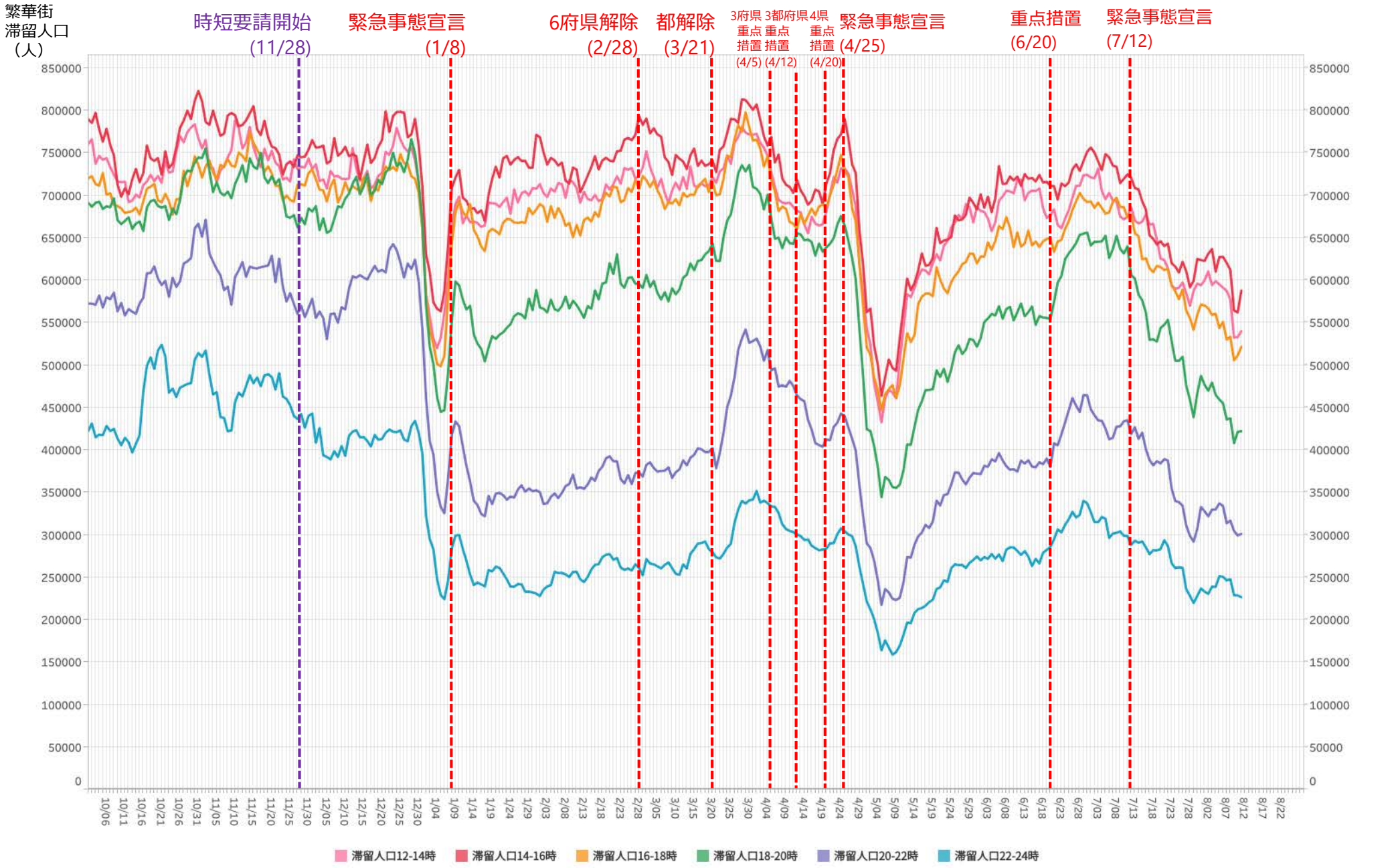
時間帯別主要繁華街滞留人口の推移（2020年3月1日～2021年8月7日）



LocationMind xPop © LocationMind Inc.

時間帯別主要繁華街滞留人口の日別推移：東京（2020年10月1日～2021年8月11日）

緊急事態7/12-



※対象繁華街は歌舞伎町・銀座コリドー街・渋谷センター街・上野仲町通り・新宿二丁目・池袋・六本木

LocationMind xPop © LocationMind Inc.

前回（3回目）宣言時の繁華街滞留人口最低値との比較

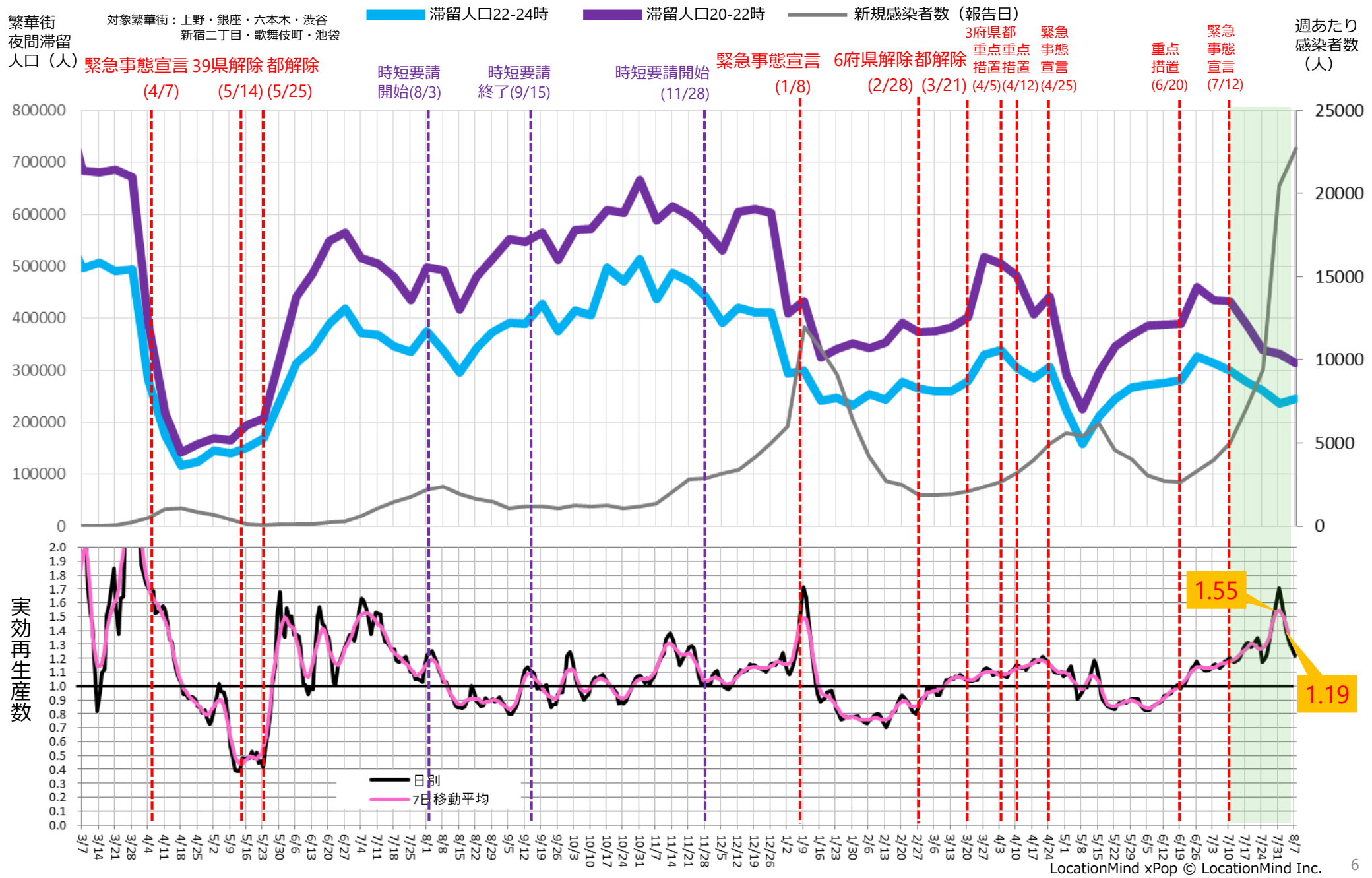
	3回目 緊急事態宣言	4回目 緊急事態宣言		
	開始後最低値 （21.5.2-5.8）※1	2週間後 （21.7.18-7.24）※2	3週間後 （21.7.25-7.31）※2	4週間後 （21.8.1-8.7）※2
全体（12-24時）	40.7%減	15.8%減	17.3%減	20.6%減
昼間（12-18時）	36.0%減	13.7%減	13.9%減	16.3%減
夜間（18-24時）	48.2%減	18.9%減	22.5%減	27.0%減
18-20時	47.3%減	20.0%減	22.8%減	31.0%減
20-22時	49.3%減	21.7%減	23.3%減	27.7%減
22-24時	48.5%減	12.7%減	20.8%減	17.6%減

※1　3回目緊急事態宣言直前の週（21.4.18-24）の繁華街滞留人口を100%とした場合の比率
※2　4回目緊急事態宣言直前の週（21.7.4-10）の繁華街滞留人口を100%とした場合の比率

LocationMind xPop © LocationMind Inc.

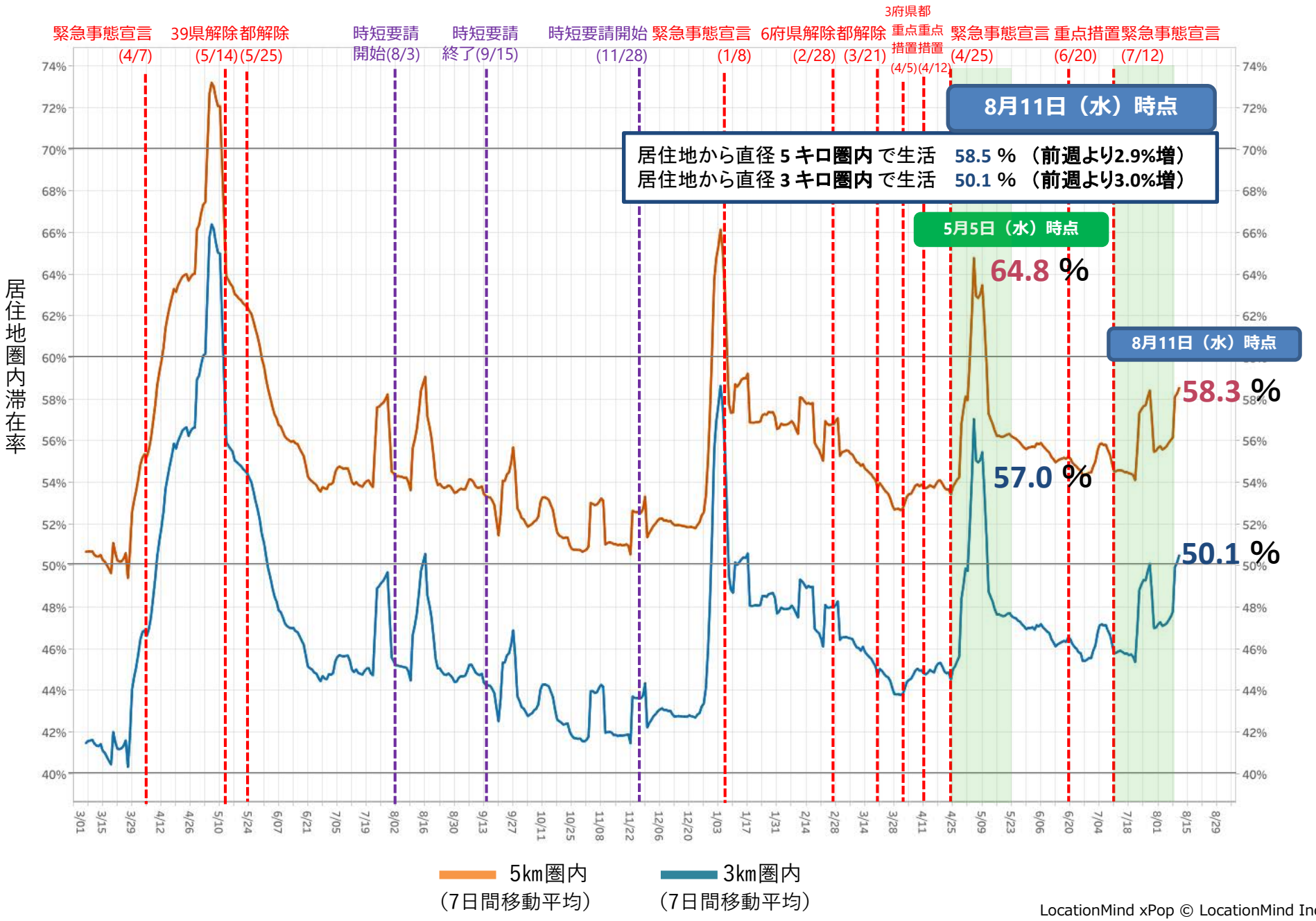
主要繁華街夜間滞留人口の推移と実効再生産数:東京（2020年3月1日～2021年8月7日）

緊急事態7/12-



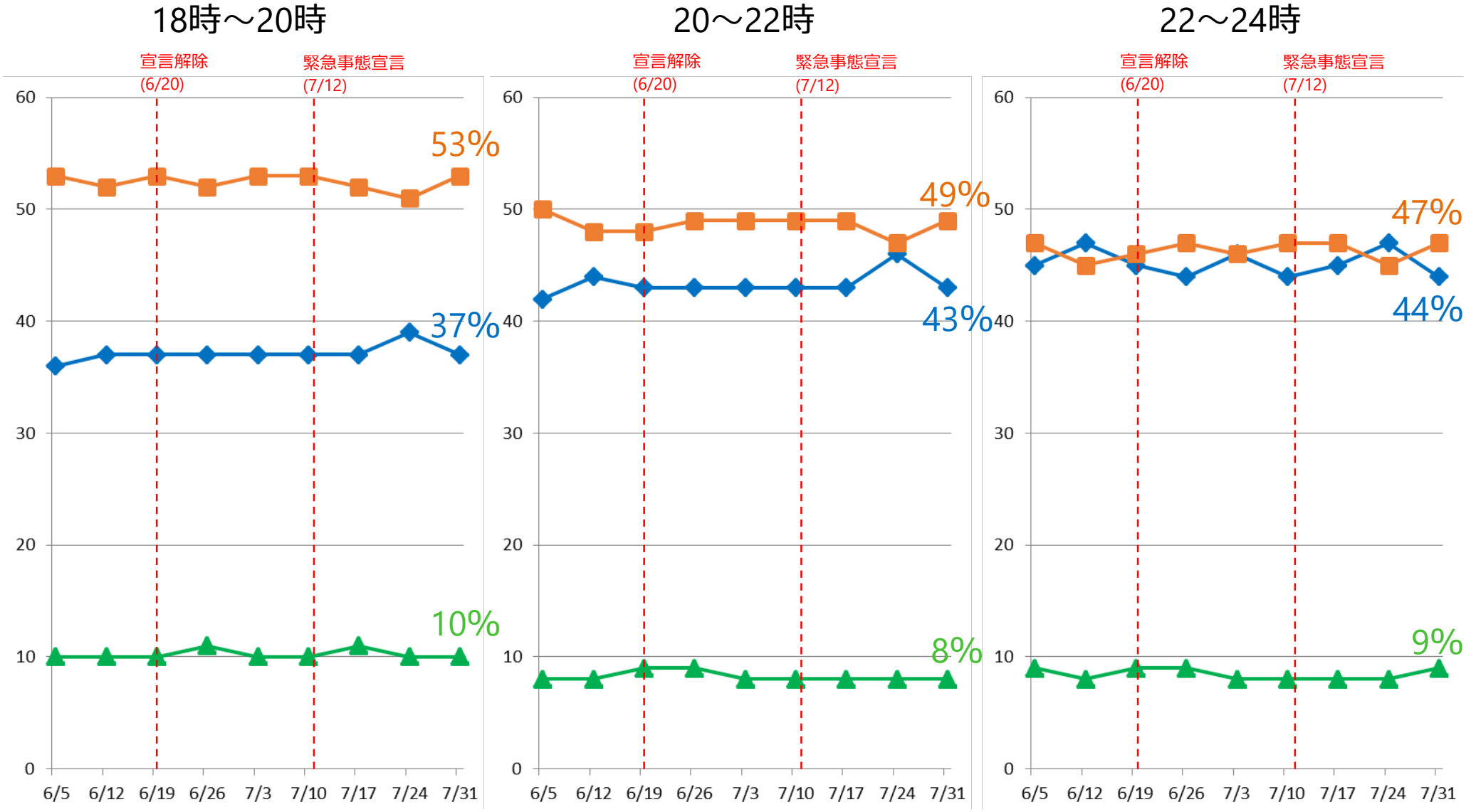
LocationMind xPop © LocationMind Inc.

ステイホーム指標（2020年3月1日～2021年8月11日）：東京都内全域



LocationMind xPop © LocationMind Inc.

都内主要繁華街における夜間滞留人口の年代別占有率（2021年6月1日～7月31日）



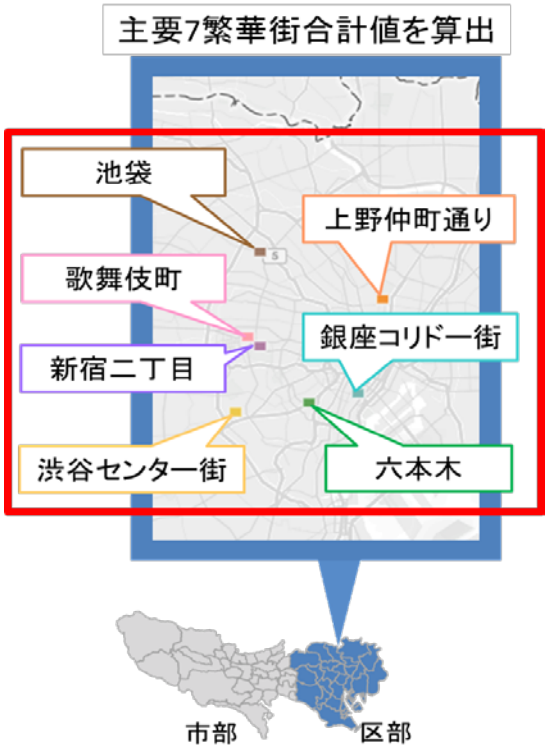
LocationMind xPop © LocationMind Inc.

15～39歳　40～64歳　65歳以上

ハイリスクな人流・滞留を正確にとらえる

- GPSの移動パターンから**レジャー目的の人流・滞留を推定**※
- **主要繁華街**にレジャー目的で移動・滞留したデータを抽出
- ハイリスクな時間帯の人口滞留量を

  1時間単位で推定（500mメッシュ単位）
- **LocationMind ⇒都医学研⇒東京iCDC**



※GPS移動パターンから職場と自宅の場所を推定した後,
職場・自宅以外の15分以上の滞留をレジャー目的としてカウント

※レジャー目的の滞留人口をより正確に把握するために2021年7月より繁華街滞留人口の推定方法を改良している。

LocationMind xPopのデータは、NTTドコモが提供するアプリケーションサービス「ドコモ地図ナビ」のオートGPS機能利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、NTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータを使用。位置情報は最短5分ごとに測位されるGPSデータ(緯度経度情報)であり、個人を特定する情報は含まれない。